

所属	心理学研究科 現代心理学専攻 修士課程	修了年度	2023 年度
氏名	志賀 亮紀	指導教員 (主査)	河野 理恵

論文題目	他者からの評価の恐れがコスト・予測バイアスを介して社交不安に及ぼす影響の検討 ——ポジティブな社会的出来事の否認を踏まえて——
------	--

本文概要

【問題・目的】 社交不安症は、社交場面において著しい恐怖または不安を感じ、自身の振る舞いや不安症状を見せることが否定的な評価を受けるのではないかと恐れる疾患である(American Psychiatric Association, 2013 高橋・大野監訳 2014)。これまでの研究では、他者からの否定的な評価への恐れ、及びその予測である Fear of Negative Evaluation(以下、FNE とする)、社会的状況の潜在的な脅威を過度に見積もるコストバイアス、否定的な結果の生起頻度を過度に見積もる予測バイアス、他者からの肯定的な評価への恐れである Fear of Positive Evaluation(以下、FPE とする)、肯定的出来事を自身の能力や努力に帰属せずに外的要因に帰属するポジティブな社会的出来事の否認(Disqualification of Positive Social Outcomes:以下、DPSO とする)が社交不安症者に特徴的な認知的要因であることが指摘されている(Watson & Friend, 1969;Foa et al., 1996;Weeks et al., 2008;大川他, 2019)。一方で、本邦においてはFPE と DPSO の社交不安への影響メカニズムについては十分な検討がなされておらず、これらを踏まえた社交不安研究の蓄積が必要である(大川・城月, 2017;大川他, 2019)。そこで本研究では、FNE, FPE, DPSO, コスト・予測バイアスが社交不安に影響を及ぼす仮説モデルを構築し、そのプロセスを検討する。

【方法】 調査対象者：首都圏の私立大学に在籍する学生 283 名。調査時期：2023 年 6 月。質問紙の構成：①フェイスシート。②FNE に関する質問：笹川他(2004)の Fear of Negative Evaluation 短縮版のうち、二瓶他(2018)を参考に逆転項目を除いた 8 項目 5 件法。③FPE に関する質問：前田他(2015)の Fear of Positive Evaluation Scale 日本語版 10 項目 10 件法。④社交不安に関する質問：金井他(2004)の Social Interaction Anxiety Scale 日本語版 20 項目 5 件法。⑤DPSO に関する質問：大川他(2019)の The Disqualification of Positive Social Outcomes Scale 日本語版 13 項目 7 件法。⑥コスト・予測バイアスに関する質問：城月・野村(2009)の Social Cost Probability scale 12 項目 5 件法。

【結果・考察】 いくつかの尺度において性差が確認されたため、男性データと女性データに分けて分析を行った。また、FNE, FPE, DPSO, コスト・予測バイアスが社交不安に及ぼす影響を検討するために仮説モデルを基に共分散構造分析を実施した。男性データを用いた男性モデル、女性データを用いた女性モデルの最終的な分析モデルの適合度は、男性モデル：GFI=.974, AGFI=.909, CFI=1.000, RMSEA=.000, 女性モデル：GFI=.979, AGFI=.926, CFI=.993, RMSEA=.058 であった。したがって本研究結果から、社交不安は、FNE と FPE を含む他者からの評価の恐れに基づいていることが示され、他者からの評価の恐れは、DPSO に影響を及ぼし、予測バイアスやコストバイアスに影響を及ぼす。そして、社交不安の維持につながるという一連のプロセスが明らかになった。加えて、DPSO に FPE が FNE よりも強い影響を及ぼすことが示されるとともに、新たに DPSO からコストバイアスへの影響過程が男女ともに明らかになった。DPSO は最終的に自信を損なうように機能するとされ(Cook et al., 2019)、DPSO による自信の損失はより多くの社会的脅威の見積もりに寄与し、また、男性の方がパス係数の値が大きかったことから、これは男性においてより顕著なことが推察される。さらに、コストバイアスの改善によって社交不安症の改善が大きく期待できることから(Foa et al., 1996)、本研究において DPSO とコストバイアスの関係性を明らかにしたことは一定の価値があると考えられる。一方で、本研究の調査対象者では結果の一般化には限界があり、今後は社交不安症者を対象にしたさらなる研究が必要である。